



富岡製糸場総合研究センターだより

No. 3

(2021年5月発行)

富岡製糸場をもっと楽しむための豆知識をお届けします！

まゆ はかり 繭を量る秤がこんなところに

富岡製糸場には、^{ひがしおきまゆじよ}東置繭所のアーチ下に、搬入された繭の重さを量るための^{だいかん}台貫が残っています。台貫とは車両やその積載物の重量を測定する大型の秤のことです。実は皆さんが歩いていたアーチ下の地面部に、量る物を乗せる鉄板部分が設置されているのですが、現在は保護と見学者の安全面から上にマットを敷いているため、気付かなかった方もいるかもしれません。よく見るとマットの脇に、測定量を知らせる表示部である度表(目盛り)と指針があります。

量り方は、まず繭を乗せた自動車ごと計量し、繭を降ろした後、再度自動車を計量して繭重量を算出します。現在も私たちの生活の中で同じようなシステムを導入している場所があります。清掃センター(ごみ処理施設)です。繭と同じような形で、車で搬入したゴミを量っています。

この台貫が富岡製糸場に導入されたのは1971(昭和46)年です。測定可能重量は500kgから15tまででしたが、1983(昭和58)年には改造され、20t弱まで量れるようになりました。種類等にもよりますが、繭は乾燥される前の蛹が入った状態だと^{りゅう}1粒約2g前後なので、車の重量を除いたとしても、一度にとってもたくさんの繭を量ることができました。

◆ 発行 ◆

富岡市世界遺産観光部 富岡製糸場総合研究センター

